

県選手権者を決めるこの大会は、今年で17回目。

各クラスの選手権を目指して、熱い戦いが繰り広げられた。



### 福島県選手権とは

第1回大会が開催されたのは、1991年(平成3年)。その後、開催時期に変動はあったものの、今年で17回目を迎えた伝統ある大会である。

発端は、二本松市で開催された全日本大会(1989年、平成元年)が終わった後、次のビッグイベントである1992年(平成4年)のふくしま国体へ向けて関係者が盛り上がっている中、事前の大会開催の必要性から生まれたのがこの『福島県オリエンテーリング選手権大会』であった。



現在は、青年(無制限)、成年(35歳以上)、壮年(50歳以上)、熟年(60歳以上)の男女8クラスで福島県選手権を争う。最小限の役員で運営されるこの大会は、数少ない県内競技者が少しでも多く参加できるよう配慮され、県内競技者のレベル向上に貢献してきた。過去の選手権者には、高橋善徳氏も名を連ねている。

### 今年は賑やか!?

今年は、本宮町の本宮総合運動公園を会場にして行われた。秋晴れの絶好のオリエンテーリング日和のもと、60名を超える参加者が集まった。岩手大学、岩手県立大学や新潟大学などからも多くの学生が参加し、賑やかな大会となった。

ただ、選手権に該当する県内競技者の層は薄く、WA、W60Aは該当選手がなく、W35A、M60Aは、完走すれば選手権者になれる、というのが実態でもある。そんな中、MAでは、佐藤が元インカレチャンプの賞禄で福島大生を抑え獲得。M50Aでは、堀切が逃げ切り、M35Aでは、内山が最後の最後で逆転、W50Aでは、関根がトライアスロンのオリンピック代表西内洋行選手の母上を破るなど、各クラスで地元選手の戦いが繰り広げられた。



選手も少なく、決してレベルも高いとは言えないが、『選手権』を狙って選手は熱くなる。そして、こんな大会を提供し続ける福島県はもっと熱い!

県総体では、県内のクラブチャンピオンを決めるリレー大会が行われ、46回を数える伝統の二本松大会、冬にはスキーオリエンテーリング大会まで行われる福島県はとっても熱いのです!

### 今年の選手権者

第17回福島県選手権者は、以下の方々が獲得し、とても立派なカップや楯が授与された。

- MA 青年男子選手権者  
佐藤 時則(しましまフクの会)
- W50A 壮年女子選手権者  
関根多恵子(矢吹町)
- W35A 成年女子選手権者  
佐藤 典子(福島OLC)
- M60A 熟年男子選手権者  
市川 公男(二本松OLC)
- M50A 壮年男子選手権者  
堀切 秀俊(福島OLC)
- M35A 成年男子選手権者  
内山 孝博(OLP兵庫)

(参考文献:福島県OL協会『50年のあゆみ』)  
(内山 孝博)